

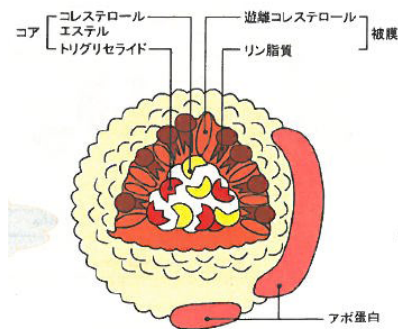
●寒い日が続きますが、体調管理はできていますか？

かぜの予防のためにも、手洗いとうがいを忘れずに！

今回のテーマは、

「コレステロールとTG（中性脂肪）」 です。

・食事に含まれる脂質の多くは中性脂肪です。体内では主に肝臓と小腸で合成され、エネルギー源として利用されています。これらの脂質はそのままでは水に溶けないため、血液中ではアポリポ蛋白と結合し、リポ蛋白として存在しています。



リポ蛋白の構造

・血液中のコレステロールや中性脂肪などが、蛋白質と結びついたものをリポ蛋白といいます。リポ蛋白を遠心分離器にかけると、比重の違いによって軽い順に、カイロミクロン、VLDL（超低比重リポ蛋白）、LDL（低比重リポ蛋白）、HDL（高比重リポ蛋白）に分けられます。コレステロールを多く含んでいるリポ蛋白としてはHDLとLDLがあります。

・カイロミクロンは腸から吸収された脂質を肝臓に輸送する役割を担っています。肝臓に運ばれた脂質は、VLDL、LDL、HDLに変換され、体に運ばれて組織の代謝に用いられます。

コレステロールとは

・脂質の1種で、身体にとって必要な栄養の1つです。コレステロールの多くは肝臓で合成されますが、小腸、性腺および副腎でも合成されていて、コレステロールエステルまたは遊離型で存在しています。

・生体内では細胞膜の成分、胆汁酸およびステロイドホルモンの原料として重要なものです。

★善玉コレステロールと悪玉コレステロール★

・コレステロールには善玉コレステロール、悪玉コレステロールと呼ばれるものがあります。善玉コレステロールは「HDL」というリポタンパクに包まれ、悪玉コレステロールは「LDL」というリポタンパクに包まれているコレステロールです。

・違いは善玉「HDL」には全身の細胞で余ったコレステロールを回収して肝臓に運ぶ機能があります。一方、悪玉「LDL」には肝臓からコレステロールを全身の各細胞に運ぶ機能があります。

・人では、LDLが多いですが、犬・猫ではHDLの方が多く存在しています。このことは犬・猫では動脈硬化や心筋梗塞が少ないと言われる原因の一つと考えられています

TG（中性脂肪）とは

・TG・トリグリセライド（中性脂肪）はグリセロール（グリセリン）に3分子の脂肪酸がエステル結合したもので、脂肪酸には多くの種類があるため、様々な化合物が含まれます。

中性脂肪は貯蔵脂質です。エネルギー源になる、体温を保つ、衝撃から内臓を守るなどの重要な役割をもっています。

中性脂肪が蓄積されると体脂肪になるので、中性脂肪のためこみすぎが肥満へとつながっていきます。

TChoとTGの測定上の注意点

・食後には一過性のTGの上昇がみられるので、採血前には一晩または12時間の絶食を行う必要があります。

・コレステロールも過去には食事の影響を受けるとされていたが、軽度の上昇することはあっても、臨床的に問題となるような高値を示すことはありません。

・TGの上昇により血漿が乳白色にみえるほどの乳糜血症では、他の測定項目の数値にも影響する可能性があります。



●動物ケンサの参考値 (単位 mg/dl)

中性脂肪	イヌ 20~121	ネコ 6~138
総コレステロール	イヌ 105~355	ネコ 81~239
HDLコレステロール	イヌ 71~170	ネコ 67~147
LDLコレステロール	イヌ 1~8	ネコ 2~20



・TCho と TG はともに上昇することも多いため、TG の測定がされないことがあります。糖尿病や犬の急性膵炎や家族性の高脂血症などでは TG のみの増加がみられることもあるので、この疾患が疑われる場合には TCho と TG をあわせて検査する必要があります。

るので、この疾患が疑われる場合には TCho と TG をあわせて検査する必要があります。

原発性(遺伝的)高脂血症

- ・ミニチュアシュナウザー、シェルティー、ビーグルやプードル、コッカーなど(高トリグリセリド血症)
- ・シェットランド・シープドッグ
(高コレステロール血症)
- ・猫の LPL 欠損症(リポ蛋白リパーゼ欠損症)
- ・猫の特発性高カイロミクロン血症

疾患として

- ・犬と猫の糖尿病では、TG の上昇が頻繁に認められ、多くは TCho の上昇を伴います。
- ・胆汁うっ滞では、犬と猫がしばしば TG の上昇を伴わない TCho の上昇が認められる場合があります、追加検査として総ビリルビン、ALP および γ GTP を検査して評価します。
- ・腎疾患ではネフローゼ症候群や蛋白喪失性腎症の際に TCho の上昇がみられ、しばしば TG の上昇を伴うことがあります。

内分泌疾患には高脂血症を伴うものが多い

- ・副腎皮質機能亢進症で 75%以上の犬・猫で高脂血症がみられる。
- ・甲状腺機能低下症の犬の約 75%、そして副腎皮質機能亢進症の犬の約 90%で、絶食時の TCho 上昇が認められる(TG は上昇することもあればしないこともある)。

2月と言えば節分です。

節分の意味と由来



どういう意味?

・2月3日は季節と季節の分かれ目であり、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことをさしていました。現在では、「立春」の前日を「節分」と呼ぶようになっています。

「春と冬を分ける節目の日」ということになります。

その「春」が始まる前日、新しい一年が始まる前日に
「これから始まる、新しい一年が、不幸や災いが無い一年になりますように」

との願いを込めて、一年に一度、節分をこの時期に行うそうです。

節分に豆まきをするのはなぜ?

いろいろな説がありますが、昔、京都に鬼が出て、みんなを困らせていました。その時に、神様からのお告げで豆を鬼の目に投げて、退治したという話があります。

「鬼=魔」

「**魔(ま)を滅(め)つする**」という言葉から、その年が無病息災で過ごせるようにと、豆を撒くようになったそうです。

豆についての、豆知識

豆は「**煎った大豆**」でなければなりません

これは、なぜかという生豆は、そこから芽が出てきます。「魔」から目が出てくるということで、**大変、縁起が悪い**とされています。